

科症例報告会を終えて

去る2018年1月26日、リハビリテーション科による症例報告会を開催いたしました。タイトルは「多職種連携強化と地域包括ケア病床の活用がADL（日常生活動作）向上につながった1症例」ということで、整形外科疾患術後の患者様がADL全介助レベルから自宅退院後に家事ができるレベルまで回復した経過を報告しました。

今回は当日お話しできなかった、症例報告のきっかけとなった出来事をお話しさせていただきます。それは『手づくり棒 誕生』から始まりました。昨年初夏のある日、ゴソゴソと新聞紙を丸めて何やら始めた理学療法士のNさん。気になった私は「なに作るの〜？」と尋ねると「患者さんに自主練習で腕の力をつけていただこうと思って。担当の看護師さんにも相談されたんですよ」と答えました。完成した1本目はお気に召さなかったらしく作り直し。2本目はクオリティー抜群。「テープの色は何かいいですかね？」「明るく派手にしたらどうかな〜」「気に入っていただけるといいですね」などと言いながら『手づくり棒 第1号』が誕生しました。それはまさに患者様の自主練習の「相棒」となりました。

今振り返ると、介入初期からご本人の意欲と看護師さん・セラピストの協力体制と熱意が備わっていたのです。その後も早い段階で看護師さんを中心にMSW（医療相談員）・CM（介護支援専門員）・PT（理学療法士）・ご家族様が協働し、情報交換を頻繁に行い自宅退院へ向けた支援ができました。リハビリテーションでは、一般病棟～地域包括ケア病床～訪問リハビリテーションまで、セラピスト同士で患者様の身体機能の問題点や目標を明確にしてアプローチできたことがADL向上につながったと考えております。また、病棟で歩行練習をしている時に、病棟スタッフの皆さまから「頑張ってるね」「歩きが良くなったね」などと温かく声をかけていただいたことも大変ありがたく、ご本人の大きな励みになっていたことは言うまでもありません。

各職種が各々の専門性を活かしながら、「当たり前のことを、着実に」任務を、遂行することの重要性を再認識しました。

これからも患者様へ在宅・生活復帰の最良の支援ができるように、私の大好きな言葉「一診一笑」を心に、役割をしっかりと果していきたいと思えます。

(リハビリテーション科 理学療法士 長浜 梯子)



手作り棒使用例



介護老人保健施設コーナー

鬼は～外～、福は～内～（節分の豆まき行われる）

節分には一足お先に2月2日（金）豆まきが行われました。赤鬼と青鬼が金棒を振り回し各階に現れ、利用者の方々が口々に「鬼は～外～、福は内～！」と鬼へ豆をまき、無病息災を願いました。

思い思いに鬼へ豆まきする利用者の姿や、逃げ出す鬼の姿に、福を呼び込むような笑い声が上がりました。



当施設のインフルエンザ対応



秋田県内および能代市内のインフルエンザ罹患率が上がってきたことに伴い、1月23日より面会禁止とさせていただきます。洗濯物の受け渡しは、午前が11時から12時、午後は3時から5時の間で実施しております。ご家族ならびに面会者の方々にはご迷惑をお掛けしておりますが、ご理解とご協力をお願いしております。

1階ホール自動販売機横に内線電話を設置しており、休日や夜間の連絡にご利用いただいております。施設内に入る際には短時間の場合でも

手指消毒とマスクの着用をお願いしております。

～研修会のお知らせ～

テーマ「足病変・フットケアの基本知識～足は全身を診る窓です～」

日時 平成30年3月23日（金）18:00～19:00

場所 JCHO 秋田病院 2階健康管理センター大ホール

対象 能代山本圏内で患者ケアに従事し、フットケアに興味ある看護師・介護士

講師 糖尿病看護認定看護師 加藤美由紀 皮膚・排泄ケア認定看護師 疋田由香

お問い合わせ先 JCHO 秋田病院 地域医療連携室 高松絵里子

独立行政法人地域医療機能推進機構秋田病院 地域医療連携室

秋田県能代市緑町5-22

電話：0185-52-3271（代表）FAX：0185-54-7892（代表）

FAX：0185-54-1266（連携室直通）

編集後記

三浦：地球温暖化？寒冷化？どっち！と、思いたくなる気温差です。体調管理気を付けましょう。

高松：インフルエンザ対策一色の1ヵ月でした。基本の手洗いを大切にしましょう。

安藤：男子モーグル初のメダル獲得。感動をありがとう！

三熊：年度末にむけて慌ただしい日が続きますが、体調に注意し乗りきりましょう！

袴田：極寒の平昌オリンピック、パラリンピック、頑張れニッポン、けがの無いようにして本来の力を出して下さい。